

## 目 次

はじめに 津山市長	・・・・・・・・ P . 1
ごあいさつ 津山市教育委員会教育長	・・・・・・・・ P . 2
津山市における幼児教育の理念と展望	・・・・・・・・ P . 3
1. 津山市における就学前教育・保育カリキュラムの策定にあたって	・・・・・・・・ P . 4
子どもを取り巻く状況と子ども政策の動向	
津山市の現状と課題	
2. 津山市の育てたい子ども像	・・・・・・・・ P . 6
3. 年齢別カリキュラム	・・・・・・・・ P . 7
おおむね6ヶ月未満	
おおむね6ヶ月～1歳3ヶ月未満	
おおむね1歳3ヶ月～2歳未満	
おおむね2歳児	
おおむね3歳児	
4歳児	
5歳児	
4. 発達の特徴と育ちの連続性	・・・・・・・・ P . 22
5. 保育園(所)・幼稚園と小学校との連携	・・・・・・・・ P . 23
学びの連続性について	
特別な支援を必要とする子どもへの支援について	・・・・・・・・ P . 26
6. 津山市における就学前教育・保育カリキュラムの活用に向けて	・・・・・・・・ P . 28
資料	・・・・・・・・ P . 29
・津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成の経緯	
・年齢別カリキュラム作業部会	
・津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会運営規程	
・津山における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会名簿	
・津山における就学前教育・保育カリキュラム作成作業部会名簿	
作成を終えて	・・・・・・・・ P . 37

## はじめに

乳幼児期における保育・教育は、子どもの生きる力や生涯にわたる人間形成の基礎を培う上で重要な役割を担っています。

津山市では、乳幼児を健やかに育てる事業の一つとして、このたび「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を作成しました。これは、0歳から5歳児までの子どもの発達の特徴を捉える中で、年齢別カリキュラム等を明らかにし、保育者の援助方法等を示したものです。

平成23年度、美作大学短期大学部の松岡信義教授を会長に、私立保育園、公立保育所、私立幼稚園、公立幼稚園の代表者、そして関係行政機関の職員で構成する同作成委員会、そして作成の中核を担う組織である作業部会を立ち上げ、津山市の子どもの実態を踏まえた熱心な話し合いを行ってきました。このように、就学前教育・保育関係機関が一堂に会した取り組みができましたことは、ひとえに津山市保育協議会や津山市民間保育事業協会、津山地区私立幼稚園連合会等の皆様のご理解とご協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

保育者の皆様には、今後、このカリキュラムを活用して一人一人の子どもの発達に応じた援助や、子育て環境の整備など保育の実践に役立てていただき、就学前教育・保育から小学校教育にかけての発達や学びがつながっていくことを期待しております。また、このカリキュラムをより良いものにするため、市内保育園(所)・幼稚園・小学校での実践を踏まえ、見直していきたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、このカリキュラムが、より良き乳幼児保育・教育の一助となり、津山市の未来を担う子どもの学びと育ちが、より一層充実していくことを祈念いたします。

平成25年2月

津山市長 宮地 昭範

## ごあいさつ

平素より保育園（所）・幼稚園関係者の皆様方には、津山市の乳幼児保育・教育の推進にご尽力をいただき、ここに深く敬意を表しますとともに、厚く感謝を申し上げます。

近年、少子高齢化、経済格差の拡大、核家族化の進行等により、子ども達を取り巻く環境は大きく変化し、現在、津山市においても、不登校・暴力行為等の問題、子ども達の学力低下、児童虐待、家庭や地域社会の教育力の低下等、様々な教育課題に直面しています。このような課題の解決には、就学前教育・保育と小学校教育の接続に向けての取組みが非常に重要であると認識されています。

津山市は、従来から私立保育園、公立保育所、私立幼稚園、公立幼稚園において、それぞれが特色を活かし、日々向上心をもって就学前教育・保育を実践していただいておりますが、平成23年度に策定しました「津山市教育振興基本計画」では、さらなる幼児教育の充実に向けて「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を重点的に取り組む施策としました。

このカリキュラムの作成にあたっては、「津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会」により、熱心かつ丁寧に検討が重ねられ、保育園（所）・幼稚園での育ちと小学校教育への接続を考慮に入れながら、0歳から5歳児までの発達を見通した連続性のある保育・教育を実践するためのカリキュラムとして画期的な成果となりました。

今後は、このカリキュラムの活用により、保育園（所）・幼稚園・小学校が連携を深め、就学前教育・保育と小学校教育とが、よりスムーズに接続できるよう努めていかなければならないと考えています。そして、この取組みが、津山市の子どもの幸せな成長に寄与することを心から願っています。

結びに、このカリキュラムを作成するにあたり、大変ご尽力いただきました津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会の皆様、保育園（所）・幼稚園関係者の皆様各位に対し、心から感謝を申し上げ、ごあいさついたします。

平成25年2月

津山市教育委員会教育長 田村 芳倫

## 津山市における幼児教育の理念と展望

幼児期の教育の大切さは、いかなる時代と社会においても説かれる普遍的な事象です。津山市においても、時代の推移と社会の変化に対応してきましたが、これまで公立と私立それぞれの幼稚園と保育所(園)の関係者が、幼児教育の制度や保育の内容と方法の改善・改革等を主題として一堂に会したことはありませんでした。津山市幼児教育検討委員会が設置されたいま、公・私・幼・保のそれぞれが重ねてきた経験と実績を今後の改善・改革に資すべきであるという願いのもと、私たちは、ここにあらためて津山市における幼児教育の理念を掲げ、理念が切り開く未来を展望しようとするものです。

\*\*\*\*\*

私たちは、幼児教育とは「人生の最初期である幼児期の教育」のことであり、その幼児教育を実践する場面・言葉は「保育」である、という認識を共有しています。幼稚園、保育所の目的として、学校教育法と児童福祉法にそれぞれ掲げられている「保育」をこのように理解することで、保育内容の統合を推進し、その実現に努めます。

私たちは、まず何よりも、津山の子どもの現実から出発します。何世代にもわたって津山に住んでいる家族の子どもや最近転入してきた家族の子ども、保育所(園)に通っている子どもや幼稚園に通っている子ども、兄弟姉妹の多い子どもや少ない子ども、市街地に住んでいる子どもや農村部に住んでいる子ども等、生活条件はさまざまですが、一人ひとりの子どもの現実のなかで、その子どもにとっての最善の利益とは何かを常に念頭におかなければなりません。

私たちは、さまざまな条件において生活している子どもが、やがて大人になり社会人になっていく人生の最初期の教育を津山で受けることの意味の大きさを考えます。いつか人生の岐路に立ったとき、記憶のなかの風景や大切な人のかつての言葉が魂を奮い立たせてくれるように、津山の自然と人との関わりの中で受けた幼児期の教育は、その人の心の深いところでの力となり、人生を励ます力になります。

私たちは、すべての子どもが健康な心と身体を育み、豊かな情操と賢さを身につけ、命と自然を尊び、自信をもって他者との信頼のなかで生きることがをめざします。そのため、保育環境の整備は、保育者や子どもの人数、保育施設の数と配置、地域の状況など、あらゆる人的・物的環境の検討を踏まえて行うことが重要です。

私たちは、さまざまな問題を抱えている子どもでも、すべての子どもが必要とされる幼児教育を受け、大事なことを身につけて成長していくことを願います。小学校への入学という節目までにすべての子どもが身につけておいて欲しいと願われることからの水準に関し、幼児教育の内容と方法の検討を進めます。

私たちは、子ども時代に十分に愛情をかけられ、優しい心をもつように育てられた人が、大人になってから周囲の人々に愛をもって接し、優しさを差し伸べることを知っています。幼児期の教育が生涯を通して培われる自己教育の礎となることを考えるとき、どの子どもにも隔てのない愛情と優しさがそそがれる環境が用意される必要があります。父母その他の保護者、地域の大人そして幼児教育に携わる人々は、連携して、このような環境の創出とその維持に努めます。

平成22年3月に策定された「津山市立幼稚園将来計画」より抜粋